

湖南圏域における世代・分野を越えた地域包括ケアシステム推進の取組み（第1報） ～予防、健康づくりからつながる地域包括ケア～

○松浦さゆり 橋爪聖子 西田真理子 並河孝至
小西文子 荒木勇雄（滋賀県南部健康福祉事務所）

1. はじめに

近年、子育て世代包括支援や精神障害にも対応した地域包括ケアシステムなど、高齢者中心の地域包括ケアシステムからの広がりが求められているが、福祉や障害を主とし、保健医療分野を含む地域包括ケアシステムとはなっていない。

当圏域は、今後も人口増加が予測され、子育て世代、働き盛り世代も多く、高齢者人口のピークとなる2040年頃を見据え、高齢者だけでなく全世代、多分野を含む包括ケアの推進が必要である。

そこで、世代・分野を越えた地域包括ケアシステムの推進を重点課題とし、所内の係や分野を越えて一体的な推進を図っている。本報告では、当圏域における世代・分野を越えた地域包括ケアシステムづくりと予防・健康づくりからつながる地域包括ケアの推進について報告する。

2. 方法

取組み過程について、平成29年度から30年度の経過記録、資料等から振り返り検討した。

3. 倫理的配慮

本発表において個人が特定できる情報は用いていない。

4. 結果

1) 当圏域における世代・分野を越えた地域包括ケアシステムの基本的な考え方、目的

人口推計、生活習慣実態、糖尿病予備群が多い健診結果、各市における多職種連携の着実な推進といった現状を踏まえ、圏域全体の今後の重点として、健康づくり、生活習慣病予防から医療連携、在宅医療・看取りまで、また、子どもから働き盛り、高齢期まで全ての世代、全ての健康度の人を対象とした世代・分野を越えた地域包括ケアシステムを基本的な考え方、目的とした。

2) 圏域医療福祉ビジョンの見直しを通じた推進

圏域医療福祉ビジョンの策定から5年経過し29年度に実施した中間見直しでは、健康増進、医療や介護関連データの整理と分析、圏域の関係機関、団体、行政の取組み実績と課題を把握し、今後の方向性に世代・分野を越えた地域包括ケアシステムの推進を組み込んだ。これから高齢者人口のピークを迎えること、生活習慣病リスク者が多い現状から予防・健康づくりを重点の1つの柱と位置づけた。

3) 健康づくりからつながる包括ケアの取組み

予防重視の考え方を世代・分野を越えた地域包括ケアシステムの基盤とし共有した。健康づくりの情報は、狭義の健康づくり担当者への発信から医療や介護分野も含め包括的に発信した。また、30年度は、健康づくりをたばこ、運動など断片的ではなく総合的に推進するため、湖南圏域みんなでコラボヘルス推進会議へ改

編し、地域、職域、保険者の連携を強化した。また、地域の関係機関、団体が参画する圏域医療福祉ビジョン推進の協議体を発展させ、ワーキングテーマに健康づくりを設定し、医療機関や介護事業所が地域住民の健康に意識を拡大して取組みを考えることに繋がった。

4) 推進体制

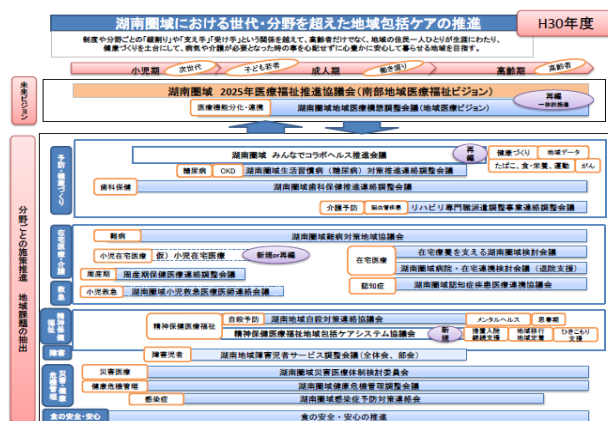
(1) 所内の連携体制づくり

総合的に推進するために、所内係長会議を核にして全体枠組みを検討した。自圏域がめざす世代・分野を越えた地域包括ケアシステムの姿を資料化し共有した。地域包括ケアシステムに関連することは、どの係の担当業務でも係長会議で定期的に情報共有した。

(2) 所外の連携体制づくり

医療福祉ビジョン推進の協議体を圏域全体の地域包括ケアシステム推進の場と位置づけ、テーマ別情報共有を議題に設定し、年間を通じて検討につなげた。関係機関、団体を含めて当圏域がめざす世代・分野を越えた地域包括ケアシステムの姿と全体像を共有した（図1）。

図1 圏域における地域包括ケアシステムのめざす全体図



5. 考察

地域包括ケアシステムの構築は、地域の特性や実情に応じて構築していく必要がある。めざす地域包括ケアシステムの目的、目標を明確にすることで、圏域特性に応じた方向性の共有につながったと考える。圏域の特性、圏域データに見る現状の上をめざす姿を描き、資料化して提示することで、全体と各分野のつながりが見えやすくなり、認識の共有と一体的な推進につながったと考えられる。

保健所の日常の担当業務から包括体制へ、これまでの基盤を活かしながら発想を広げられる働きかけが重要であると考えられた。今後も保健所の機能を活かし、広域の地域保健医療福祉を一体的に推進し、圏域の世代・分野を越えた地域包括ケアシステムの充実を進めていきたい。

湖南圏域における世代・分野を越えた地域包括ケアシステム推進の取組み（第2報）
 ～精神保健医療福祉に対応した地域包括ケアのネットワーク構築に向けて～

○ 古川由佳子 寺田裕美 橋爪聖子 松浦さゆり 小西文子
 荒木勇雄（滋賀県南部健康福祉事務所）

1. はじめに

「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」（H29.2月）で、精神障害者が、地域の一人として、安心して自分らしい暮らしができるよう、医療、障害福祉、介護、社会参加、住まい、地域の助け合い、教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を新たな理念とした。当圏域では、精神疾患の有無に関わらず、すべての人々がその人らしく活躍できる「精神保健医療福祉に対応した地域包括ケアシステム構築」を目指した、世代や分野を超えた関係機関・団体との連携によるネットワーク形成のために、今までの精神保健福祉活動の評価を行い、会議体系を改編し、新たな推進体制において取組みを行ったので報告する。

2. 方法

取組みの過程について、H29年度から30年度の経過記録、資料等から振り返り検討した。

3. 倫理的配慮

本発表において個人が特定できる情報は用いていない。

4. 結果

1) 当圏域における精神保健医療福祉に対応した地域包括ケアシステムの基本的な考え方、目的

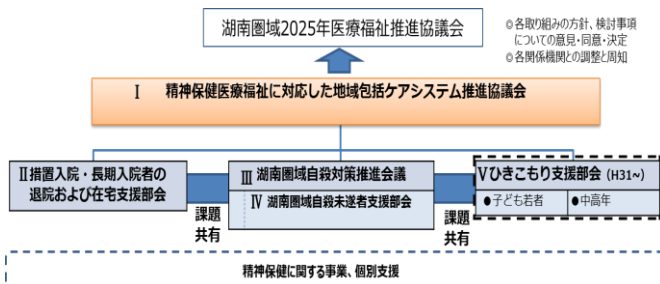
精神疾患の有無に関わらず、全ての人々のこころの状態に応じた適切な支援や予防が提供されるよう、世代や分野を超えた様々な関係機関・団体との連携体制の推進および、その人らしい暮らしが実現できる地域づくりを目指す姿とし、効果的で切れ目のない人的ネットワーク体制を構築することを基本的な考え方、目的とした。

2) 推進体制

(1) 所内の連携体制づくり

①精神保健医療福祉に対応した地域包括ケアシステムを総合的に推進するため、自圏域が目指す姿や目的について、係長会議を核に検討、共有し、組織全体として取り組んだ。

図1 精神保健医療福祉に対応した地域包括ケアシステム推進体制図



②今までの自圏域の精神保健福祉活動の取組みは、精神障害者の地域移行・地域定着支援、自殺対策およびひきこもり状態にある人の個別支援を中心に展開してきた。

これらの取組みの中で、共通した健康課題を感じていたものの、互いの領域において共有されず、それぞれが連動した体系的な推進体制になっていないことが明らかになった。そこで、自圏域の精神保健福祉活動が、予防の観点を含めた世代、分野を超えた横断的な取組みとして、互いに連動し効果的に展開できるよう、所外の連携体制の改編を行った。（図1）

(2) 所外の連携体制づくり

①各領域における目指す姿、目的の共有

各領域における協議の場において、自圏域の現状と課題を資料化し、目指す姿や推進体制の改編の経緯、健康課題を共有し、解決に向けた具体的な方策について、意見交換を行った。優先的に取り組む事項について関係機関とともに検討し、互いに連携しながら実践することを共通理解することができた。

②精神保健医療福祉に対応した地域包括ケアシステム推進協議会

地域医師会や、病院、薬剤師会、警察、消防、行政など精神保健医療福祉分野にとどまらず、世代分野を超えた関係機関の長が参画し、自圏域の地域包括ケアシステム構築の全体像や、目指す姿、推進体制の改編の経緯について共有、検討を行った。また、各領域で協議された内容や具体的な取組みの方向性について合意形成を図るとともに、更に世代分野を越えた横断的なネットワーク構築のために、連携強化する方策について意見交換することで、各関係機関の相互理解や、自組織の役割の確認・認識につなげることができた。

5. 考察

精神保健医療福祉に対応した地域包括ケアシステムの構築は、圏域の特性を理解して進めていく必要がある。自圏域の現状や課題を分析、資料化し、目指す姿を共通理解することで、圏域の特性に応じた具体的な取組みや地域との関係機関とのネットワーク強化における方策について意見交換することができた。また、推進体制の改編を行い、各領域での協議内容や課題について上位会議に報告、合意形成が図られることを明確にしたことで、関係機関の連携による取組みが、湖南圏域医療ビジョンの推進に寄与し、一体的な推進につながるという意識向上につながったと考えられる。

保健所は、自圏域の現状や各関係機関の取組みについて日ごろから情報収集し、関係機関の協議の場を提供する役割がある。情報を分かりやすく資料化し、目指す方向性を明確にすることで活発な意見交換が図られ、各関係機関の相互理解・連携が深まり、切れ目のない人的ネットワーク構築を形成することができると考える。

今後も関係機関をつなぎ、精神保健医療福祉に対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みを深化させていきたい。

湖南圏域における世代・分野を越えた地域包括ケアシステム推進の取組み（第3報） ～地域包括ケアをベースにした災害医療体制づくり～

○ 西田真理子 松浦さゆり 橋爪聖子 並河孝至
小西文子 荒木勇雄（滋賀県南部健康福祉事務所）

1. はじめに

当圏域は、災害拠点病院2か所を含め13の病院があり医療資源に恵まれている。また、地域医師会や地域薬剤師会がそれぞれ2か所など社会資源にも恵まれている。

災害時において、医療供給体制を効率的・効果的に機能させる為には平時からの関係機関の連携体制づくりが重要である。当圏域においては、世代・分野を越えた地域包括ケアシステムの推進を重点課題としている。その取組のひとつとして、災害医療体制づくりについて報告する。

2. 方法

取組みの過程について、H29年度から30年度の経過記録、資料等から振り返り検討した。

3. 倫理的配慮

本発表において個人が特定できる情報は用いていない。

4. 結果

1) 当圏域における災害医療体制の基本的な考え方、目的

「大規模災害時における医療救護活動指針」に基づき、圏域の特性を生かしながら、保健所を災害医療の地方拠点とし、各市の災害医療体制の構築、避難行動要支援者への対策の確立を柱に、効率的・効果的に医療資源を供給できるよう、平時から関係機関の連携を深め、よりよい体制の構築につなげていく事を基本的な考え方、目的とした。

2) 推進体制

(1) 所内の連携体制づくり

災害医療体制づくりを総合的に推進するため、所内係長会議を核として、自圏域が目指す姿や目的を検討共有し、組織全体として取り組んだ。

(2) 所外の連携体制づくり

①会議の開催による相互理解と目的の共有

・圏域災害医療体制検討委員会の開催

圏域災害医療体制検討委員会において、圏域として目指す方向を共有した。各機関の取組みを共有し、相互の理解や、自組織の役割の確認・認識につなげた。また、訓練の実施結果や課題を共有し、取組みへの気運を高めた。目指す姿に向けて、今後も訓練を企画実践し、評価する事により、よりよい体制づくりを進めていく事について、関係機関が共有した。

・行政間情報交換会の開催

4市の防災担当・保健担当と情報交換会を開催し、市の災害医療体制構築の必要性の理解促進を図った。また、台風時の停電情報等を共有する事により、避難行動要支援者の個別計画策定の必要性について共有した。

②訓練の実施を通じた意識の向上、課題の明確化

・災害医療南部地方本部運営訓練の実施

保健所を拠点とし、DMATと協働しながらフェーズ1から2を中心とした訓練を実施した。行政機関に集まる情報を共有する事により、効果的な支援につながる事を確認し、DMATと保健所が協働する事の重要性が明確になった。

体制の強化向上のため、継続的に訓練を実施する事と、DMATから地域医療への移行についての体制を検討していく事を確認した。

・M市災害対策本部運営訓練の支援

モデル的にM市災害医療対策本部運営訓練を実施することの合意を得、保健所として支援を行った。本部機能を確立するため、フェーズ1からの訓練を実施し、医師会・歯科医師会・薬剤師会等関係機関と連携するとともに、急性期医療の対応から健康維持、疾病予防までも視野に入れた訓練を実施した。発災直後から世代分野を超えた包括的な視点を持った体制構築が必要である事について、訓練を企画実施したM市職員や関係機関、見学参加した他市職員等の理解と意識が高まったと考える。

三師会等との協定の具体化、市の内部連携の在り方、保健所や他市との連携の検討等が課題として明らかになった。

③研修を通じた意識の向上

・保健所による研修会の企画

災害時には、避難所における要配慮者の医療ニーズを把握し、限られた資源を効率的効果的に配分する事が必要になる。その理解を深めるため、避難所評価研修会を開催した。講義や多職種による演習により、普段の業務による視点の違いや、平時からお互いを知り、共通認識を持つための協議の必要性など、具体的イメージを持つ事が出来た。

・他機関の研修等への主体的な参加

他機関が実施する訓練や研修会等の情報を関係機関に適宜発信した。参加する事により、他機関をより理解し、自組織の役割の認識や体制構築に向けた主体的取り組みにつながった。

5. 考察

災害医療体制の構築は、圏域の特性を理解し進めていく必要がある。平時から関係機関がつながりを持ち、お互いの役割、強みを知る事により、災害に強い地域づくりにつながると考える。発災直後から復興まで、急性期医療、健康維持・予防の、世代・分野を超えた包括的な調整機能を持つ保健所が関係機関の協議の場を提供し、情報を資料化しながら、相互理解・連携を深める役割を担っていく必要がある。

今後も関係機関をつなぎ、災害医療体制の構築に向けた取り組みを深化させたい。